

松本主将が準優勝一剣道・全日本学生剣道選手権

斎藤・関も出場

学生剣道の個人日本一を競う第52回全日本学生剣道選手権(毎日新聞、全日本学生剣道連盟主催)が7月4日、東京・日本武道館で行われ、松本勝範主将(法4・横浜商科大高)が決勝に進出。惜しくも中大の中沢圭介選手に面を奪われ学生日本一を逃したものの、準優勝を果たした。

松本は「優勝を意識せず、1試合ずつ全力を出し、楽しんでいこうと思っていた。結果を残せてうれしいが、あと少しと思うと悔しさもある。秋の団体戦では優勝を目指したい」と話した。

同大会には、斎藤弘樹(商4・習志野高)と関雄介(経済3・筑紫高)も出場したが、上位進出はならなかった。

試合結果(コ=小手、メ=面)

▽準々決勝

松本 ココ—尾形

(福山大)

▽準決勝

松本 コ—三根

(筑波大)

▽決勝

松本 —メ中沢

【ニュース専修2004年7月号16面】

トピーカップの出場権獲得

ゴルフ・全国大学対抗戦
女子3位、男子6位



ゴルフの全国大学対抗戦が6月16、17日、北海道樽前CCで行われ、男子は6位、女子は3位となり共に、トピーカップ日米大学対抗選手権(9月)の出場権を獲得した。

男子は初日、小さなミスで8位と出遅れたが、2日目は調子を取り戻し、6位になった。

初日2位と1打差の301ストロークで3位と好スタートを切った女子は、2日目

も299ストロークで3位をキープした。

好調を持続するゴルフ部。日米大学対抗戦での活躍にも期待したい。

また、6月22、23日、兵庫県六甲国際GCで行われた日本女子アマチュア選手権に山下乃子(経済4・安田女子高)、木村香那(商2・久居高)、西村麻衣(商2・麻生高)、横山倫子(文2・香川西高)、林佳世子(経営1・立正高)の5人が出場したが、惜しくも決勝進出はならなかった。(伊東 明希・文2)

【ニュース専修2004年7月号16面】

女子フルーレ準優勝

全日本学生フェンシング王座決定戦

東北、関東、関西、九州四リーグそれぞれの上位2校による総当りで覇を競う、全日本学生フェンシング王座決定戦が6月5、6日、中央大学で行われた。専大からは関東リーグ2位の女子フルーレが出場し、2年連続の準優勝を遂げた。

メンバーは、荻祥子(文4・大分豊府高)、鈴木彩香(商2・埼玉栄高)、舟山紗智(経済2・米沢東高)の3人。日体大、朝日大に連勝し、着実に勝ち点を挙げていったが、関西リーグ1位の同志社大に44-45で敗れ、惜しくも優勝を逃した。

荻は「同志社に1本差で負けたことは悔しいが、一人ひとりが一生懸命頑張り、今後につながる良い試合が出来たと思う」と前向きに語ってくれた。悔しさをバネに彼女達はどこまで成長出来るのか。これからの活躍に期待が膨らむ。(矢口 蘭・文2)

【ニュース専修2004年7月号16面】

馬術・関東学生馬術大会

3種目総合 3位



▲西原郁人(経済1・札幌光星高)の飛越
(撮影・伊藤明希)

関東学生馬術大会が6月24日から27日までJRA馬事公苑で行われ、専大は障害飛越、馬場馬術の2種目で4位となり、総合馬術を含めた3種目総合で3位となった。この結果に富沢健悟監督は「チームワークの建て直しが課題。1年次生は頑張ったが、上級生に緊張感が足りない。秋の全日本では頑張るのみ」と厳しい口調で語った。

この経験を糧に、秋には本来の実力を発揮し、「強い馬術部」の姿を見せてほしい。(日下石 聡子・文2)

【ニュース専修2004年7月号16面】

アテネ五輪へOB 2人

澤田さんー日本フェンシングチームの監督

フェンシング部OBで現在は男子のコーチを務める澤田聡さん(昭54文＝警視庁)が、アテネオリンピック日本フェンシングチーム監督を務める。監督として3回目のオリンピックとあって意気込みも十分。「この競技では入賞はあるものの、メダルを取ったことがないので、メダルを取ることが最大の目標。`勝つ、`ことを念頭に、基本的な技術・基礎体力を強化し、万全の状態で見たい」と力強く語ってくれた。(矢口 蘭・文2)

黒田さんー野球・日本代表に

野球のオリンピック日本代表24選手が6月25日、日本代表編成委員会から発表され、野球部OBで広島東洋カープの黒田博樹投手(平9商・大阪上宮高出身)が選出された。昨秋のアジア最終予選でも力投した黒田投手。オリンピックの舞台で躍動する姿を期待したい。

【ニュース専修2004年7月号16面】